

学会誌のさらなる発展を願って

神戸看護学会においては、2023年度より学会誌のオンライン化を進めており、過去の学会誌もHP上で閲覧することができるようになりました。今回発刊された第8巻1号は冊子体でお届けする最後の号となっています。しかしながら、最後を飾る号としては論文掲載がかなわず第8回神戸看護学会学術集会の会長講演、教育講演2件の掲載となりました。

会長講演では、神戸市看護大学教授であり、神戸看護学会の理事長である二宮啓子先生による「地域の人々のセルフケアを支える看護—子どもと家族のセルフケア支援—」をご執筆頂きました。また、教育講演1では、福井大学医学部地域プライマリケア講座教授の井階友貴先生による「なぜ今、『健康のまちづくり』!?—健康の社会的決定要因に見る未来のまちづくり—」、教育講演2では、iKIGAI 筑波大学健幸ライフスタイル開発研究センター 客員研究員川田尚吾先生に「オランダ発 “ポジティブヘルス” とその実践」をご執筆頂きました。いずれもオンデマンド配信をされていますが、紙面に記されたことでより理解を深めることができましたように思います。とはいえ、紙面に起こすには、執筆者の先生方には大変ご尽力いただきましたことと存じます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

現編集委員会の任期も残すところあと半年となりました。この間、学会誌へのご関心、ご投稿を頂きまして心より感謝申し上げます。

現編集委員会の3年間の主な活動として、学会誌のオンライン化、編集委員会規程の整備、メディカルオンラインをはじめとする電子ジャーナルの契約を進めるとともに、修了生を中心とした論文投稿への支援を行ってきました。これらの活動が投稿のしやすさや学会誌の発展に繋がると嬉しく思います。

一方、修了から期間があくと、投稿へのモチベーションを維持するのが大変困難になることを編集委員会の活動を通じて間近にみてきました。そのような状況下であっても、データ収集にご協力いただいた方々を始め社会への還元のために査読を乗り越えて公表に至った論文は、データはやや古くなっているものの、看護の本質を問うものであり光輝いているように見えました。今後は、本学会の創設目的である神戸の看護学の発展とともに修了生や学会員のみなさまが研究活動を推進する場となりますように、会員の立場からエールを送りたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様からのご投稿を重ねてお願いするとともに、神戸看護学会のさらなる発展を祈念し、稿を終えます。

神戸看護学会

編集委員会 委員長 坪井 桂子